

➤ 16日 木曜

列王 I

17:17 これらのことの後、この家の女主人の息子が病気になった。その子の病気は非常に重くなり、ついに息を引き取った。

17:18 彼女はエリヤに言った。「神の人よ、あなたはいったい私に何をしようとされるのですか。あなたは私の咎を思い起こさせ、私の息子を死なせるために来られたのですか。」

17:19 彼は「あなたの息子を渡しなさい」と彼女に言って、その子を彼女の懐から受け取り、彼が泊まっていた屋上の部屋に抱えて上がり、その子を自分の寝床の上に寝かせた。

17:20 彼は【主】に叫んで祈った。「私の神、【主】よ。私が世話になっている、このやもめにさえもわざわいを下して、彼女の息子を死なせるのですか。」

17:21 そして、彼は三度その子の上に身を伏せて、【主】に叫んで祈った。「私の神、【主】よ。どうか、この子のいのちをこの子のうちに戻してください。」

17:22 【主】はエリヤの願いを聞かれたので、子どものいのちがその子のうちに戻り、その子は生き返った。

17:23 エリヤはその子を抱いて、屋上の部屋から家の中に下りて、その子の母親に渡した。エリヤは言った。「ご覧なさい。あなたの息子は生きています。」

17:24 その女はエリヤに言った。「今、私はあなたが神の人であり、あなたの口にある【主】のことばが真実であることを知りました。」

今度の試練はあらかじめ主から聞いていたものではなく、いわば突発的なものでした。そのような試



練はさらに辛いもので信仰が試されるのですが、これまで主のみわざを体験したエリヤは、主に食いついて祈ります。このように主の訓練と成長にはさらなる段階があります。辛い出来事も主からの試練で成長のためと信じましょう。

イスラエル歴代の王たちは主に背いて、その身にも王国にも苦難をもたらしましたが、それは主の警告の通りでした。ただし主は民を十把一絡げにして滅ぼすという方ではありません。一人一人の人格や状況や人生をいつくしむ方です。また各々の信仰をごらんになって報いてくださるかたでもあります。

王国は偶像邪教によって大いに乱れていましたが、主の使命に生きる預言者がおり、またそのような主の働き人を助ける家族がいたとうことは、反逆の歴史の中にも主のみわざが、信仰の深い部分で流れていたことの証です。

旧約の時代においても勝利は信仰によるものです。しかし民族的には信仰ではなく反逆となり、滅ぼされるのですが、その回復と救いのためにはイエス様の十字架と復活を待たねばなりませんでした。私たちもときには主に背いてしまう者ですが、そういうときには十字架のもとに行きましょう。そこでエリヤやこの婦人のようになれるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

